【今、積み重ねている大切な時間】

昨年度、５歳児クラスの担任として子どもたちを小学校へと送り出しました。
その子たちが０歳児だった頃を思い返すと、現在のカモミールクラスの子と同じように、数多くの成長の瞬間に立ち会い、見守ってきた記憶が鮮やかによみがえります。
年長になって当たり前のようにしていた行動は、小さい頃からの「ちょっとずつの積み重ね」があったからこそだと、改めて実感しています。
今回は、０歳児から５歳児までを担任する中で気づいたことについてお伝えします。

1．「挨拶」の積み重ね

乳児期には、保護者の皆様や保育士などの大人が「おはよう」「さようなら」と声をかけます。子どもは、まだ言葉がわからなくてもその声を聞いたり、ハイタッチをしたりする関わりを通して、「挨拶」というものを肌で感じています。
幼児期になると、マジョラムクラスで行っている「朝の挨拶運動（お当番活動）」や園内外の人との関わりを通して、自分から挨拶をする機会が増えていきます。
そうした経験を経て、少しずつ自発的に挨拶ができるようになります。
昨年度、お散歩の際に先頭を歩く私よりも先に、後ろから子どもたちの元気な「こんにちは！」という声が聞こえてきて驚いたことがありました。
繰り返しの小さな関わりが、やがて「当たり前の姿」になっていくのだと実感した瞬間でした。

「褒める」から「認める」へ

日常の中で何気なく「できたね」「すごいね」という言葉をかけていますが、これには大きな力が宿っています。
誰かに認めてもらえる喜びは、「もっと頑張りたい！」という意欲につながります。
やがて褒められなくても自然と取り組める力へと成長していきます。
言葉掛けにもいろいろありますが、過剰に褒める、というより【子どもの頑張り】や【挑戦した過程】に目を向けて**「出来たね！」**と認めてあげることが大切だと思います。

さて皆さんは子育ての中で「これはずっと言ってきたことだから、子どもにも伝わっているな」と感じることは、ありませんか？
また、自分の親や周りの人から言われたことで「今それが身についているな」と思うことってないでしょうか？
その中で自分が「これは受け継いだらいいな」と思うものは、きっと良いことだと思うので、ぜひ伝えてください。
乳幼児の今だからこそ、生きていく基盤になるコミュニケーションや物事の善悪、人として大切にすることなどを、私達大人が教えていきましょう。
子どもはまだいろいろなことを知らないので、正しい知識を伝えて、成長を促したいですね。

（吉田）

